

# 令和2年度 第1回千葉県スポーツ推進審議会 議事録

開催日 令和2年 7月22日(水)  
 時間 14時から 16時まで  
 会場 千葉県スポーツ科学センター  
 3階 第1研修室

＜出席委員＞（敬称略50音順）

大野 敬三 黒川 仁美 添田 智恵 高橋 直子 寺山 由美 浪越 一喜 畑佐 耕一郎 藤井 和彦

＜オブザーバー＞ 向後 依明 井上 昌士 齊藤 隆作（代理出席）

＜出席事務局職員＞

千葉県教育庁	教育次長	吉野美砂子
健康福祉部 健康づくり支援課 地域健康づくり班	副主査	田邊 雅子
高年齢者福祉課 生きがい活動推進班	主事	高比良 桜
障害者福祉推進課 障害保健福祉推進班	主事	牲川 智彦
農林水産部 安全農業推進課 食育推進班	主事	松浦 美咲
環境生活部 オリンピック・パラリンピック推進局		
開催準備課 戦略推進班	主査	影山 博史
オリンピック・パラリンピック推進局		
事前キャンプ・大会競技支援課 大会競技支援班	班長	松井 龍行
県土整備部 公園緑地課 県立公園室	副主査	鶴野澤陽子
商工労働部 観光企画課 観光企画班	主事	関口 智亮
企画管理部 教育政策課 教育立県推進室企画班	主査	関 隆允
教育振興部 生涯学習課 学校・家庭・地域連携室	主査	星 一徳
学校安全保健課 給食班	指導主事	浅賀 隆之
学習指導課 教育課程室	指導主事	久我 正光
特別支援教育課 教育課程指導室	指導主事	中田 潤子
体育課	課長	伊藤 政利
施設・調整班	班長	山口 崇憲
学校体育班	班長	鈴木 智夫
スポーツ推進室	主幹兼室長	津田 亘彦
スポーツ推進室競技スポーツ班	班長	岩埜 直史
スポーツ推進室オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援班		
	班長	森井 優
スポーツ推進室生涯スポーツ班	班長	溝口 洋樹
同	指導主事	林 俊則
同	指導主事	林 徹
同	指導主事	重藤 融
同	指導主事	渡邊 国剛
同	指導主事	桃木 一
ちばアクアラインマラソン準備室	主幹	大岡 正和

## 次第

- 1 開会
- 2 委員・オブザーバー紹介
- 3 教育次長挨拶
- 4 議事

### (1) 報告事項

- ①国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会について
- ②ちばアクアラインマラソンについて
- ③東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援について
- ④第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和元年度の点検・評価（最終版）  
及び令和2年度主な施策の工程表・概要について
- ⑤令和2年度「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の実施について

### (2) 協議事項

#### テーマ

『新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う県民の体力・運動習慣の回復策』

#### 協議事項1

「幼児、児童・生徒の体力向上及び運動機会の確保」

#### 協議事項2

「運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくりの推進とスポーツ環境の整備」

### (3) その他

## 5 閉会

### 配布資料

#### ・資料1

- 1 スポーツ基本法
- 2 千葉県スポーツ推進審議会条例

#### ・資料2：報告事項

- ア 国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会について
- イ ちばアクアラインマラソンについて
- ウ 東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援について
- エ 第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和元年度の点検・評価（最終版）  
及び令和2年度主な施策の工程表・概要について
- オ 令和2年度「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の実施について

#### ・資料3：協議事項

- ア 『新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う県民の体力・運動習慣の回復策』
- イ 協議事項補足資料

## スポーツ推進審議会 議事録

### 【事務局】

会に先立ちまして、新型コロナウイルス感染症対策として、会議中は窓を開けたまま進めさせていただきます。また、皆様におかれましては、会議中マスクの着用をお願いします。

それでは、定刻となりましたので、ただいまから千葉県スポーツ推進審議会を開催いたします。私は、本日の司会を務めます県教育庁体育課の津田と申します。どうぞよろしくお申し上げます。

委員の皆様には、お忙しい中、千葉県スポーツ推進委員をお引き受けいただき、また、本日は当会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

本日は、委員改選後、初めての審議会でございますので、本来であれば、皆様お一人お一人に委嘱状をお渡しすべきところでございますが、時間の都合で既に机上に配付させていただいております。お名前等お間違えがないか御確認をいただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

それでは、委員の皆様を座席表に沿って御紹介いたします。併せて委員名簿・オブザーバー名簿を御覧いただければと思います。

- ・大野 敬三 様です。      ・黒川 仁美 様です。      ・添田 智恵 様です。
- ・寺山 由美 様です。      ・高橋 直子 様です。      ・浪越 一喜 様です。
- ・畑佐 耕一郎 様です。      ・藤井 和彦 様です。

また、本日、高坂 俊介 様、涌井佐和子 様におかれましては、都合により欠席でございます。

以上、10名の皆様に委員に御就任いただいております。

続きまして、オブザーバーとして御出席いただきました皆様を御紹介いたします。

- ・千葉県小中学校体育連盟会長、旭市立第二中学校 校長、向後 依明 様です。
- ・千葉県高等学校体育連盟会長、千葉県立大多喜高等学校 校長、川崎 浩祐 様、本日は欠席ですので、代理として、千葉県高等学校体育連盟専務理事、千葉県立千葉女子高等学校 教諭、齊藤 隆作 様に御出席いただいております。

・今年度から、特別支援学校の教育活動に関する専門性から、特別支援学校体育連盟会長様にもオブザーバーとして御出席いただくことといたしました。千葉県立千葉特別支援学校 校長、井上 昌士 様です。

オブザーバーの皆様、どうぞよろしくお申し上げます。

まず、お手元の資料を確認させていただきます。

「本日のレジメ」、「座席表」、「委員名簿」、「資料1」は、本審議会を開催するにあたって、根拠となる、スポーツ基本法及び千葉県スポーツ推進審議会条例でございます。「資料2」は、報告事項の冊子です。「資料3」は、協議事項の冊子となっております。別冊として、「第12次千葉県体育・スポーツ推進計画」の冊子、最後に、「新型コロナウイルス感染拡大防止により影響のあった事業一覧」、以上が資料でございます。御手元の資料に不備等ございましたら、お知らせいただければと思います。

よろしいでしょうか。

なお、はじめにお断りいたします。本日の会議に報道機関が取材のため傍聴し、会場の風景を撮影することについて御了承をお願いいたします。また、写真撮影について、審議会中の撮影は御遠慮いただいておりますので、今、この場で撮影される方は、お願いしたいと思います。

それでは、吉野 美砂子 教育次長が御挨拶申し上げます。

## 【教育次長】

皆様こんにちは。ただ今紹介のありました、千葉県教育委員会教育次長の吉野と申します。本日は御多用のところ、令和2年度第1回千葉県スポーツ推進審議会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

皆様には、日頃、本県スポーツの推進に御支援や御協力をいただくとともに、今年度の委員改選にあたりましては、お忙しい中、再任もしくは新任ということで委員をお引き受けいただきまして、重ねて感謝を申し上げます。

今年度は、第12次の「千葉県体育・スポーツ推進計画」の実行4年目となり、昨年度の点検・評価の結果や審議会委員の皆様からいただいた御意見を踏まえて、「スポーツ立県ちば」の一層の推進を目指して取り組んでいるところでございます。

しかしながら、現在、世界規模で拡大している、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、東京オリンピック・パラリンピックの延期、ちばアクアラインマラソンの中止をはじめ、あらゆるスポーツ活動が自粛を余儀なくされております。本計画も大きな影響を受けているところでございます。

また、今年度は、新たな第13次の計画に向けた骨子作りを行う年でもありますが、コロナの感染症は、その新たな計画の策定にも影響を及ぼすものと懸念をしているところでございます。

これらのことを踏まえまして、本日は、「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う県民の体力・運動習慣の回復策」をテーマとしまして、委員の皆様から忌憚のない御意見をいただく予定としております。「新型コロナウイルスという未知の脅威と共存しながらの新しい生活様式の中で、県民の体力や運動習慣をいかにして向上させていくか」という難しい課題につきまして、先生方の専門的な視点から、御指導や御助言を賜りますようお願いを申し上げます、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

## 【事務局】

ここで、吉野教育次長は、公務のため、退席させていただきます。

## 【事務局】

はじめに、本日の審議会は、委員10名中8名の出席をいただいておりますので、千葉県スポーツ審議会条例第5条第2項の規定により会議が成立しておりますことを御報告申し上げます。

なお、委員の委嘱後、初めての審議会のため、会長・副会長の選出がなされていませんので、選出されるまでの間、仮議長に進行をお願いしたいと思います。

仮議長につきましては、前会長の大会委員をお願いしたいと思います、いかがでしょうか。

## 【委員】

異議なし

## 【事務局】

異議なしとのことですので、大会委員、よろしくお願いいたします。

大会委員、議長席の方へ御移動をお願いします。

## 【仮議長】

仮議長を仰せつかりました、大会委員でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

その前に、今回の委員10名が紹介されました。本当は全員やるべきですが、初めて委員になられた方、自己紹介をお願いします。

**【委員】**

この度、千葉県スポーツ推進審議会委員をさせていただくことになりました、白鷗大学の藤井と申します。専門は、体育・スポーツ経営学、特に、地域スポーツ経営論や住民が自主的に行う地域スポーツクラブ作り等を研究しております。千葉を離れて長いのですが、心はふるさと千葉ですので、千葉のために微力ではございますが、お手伝いをさせていただければと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

**【仮議長】**

ありがとうございました。それでは御指名でございますので、仮議長をさせていただきます。

資料1-2を御覧ください。審議会条例第4条第2項に会長及び副会長は委員が互選すると規定されております。ですから、委員の方々が立候補される方、または、どなたか推薦していただける方がございましたら御発言いただければと思います。いかがでしょうか。

それでは、ないようですので、事務局の案を提示していただいでよろしいでしょうか。

**【委員】**

異議なし。

**【仮議長】**

御了解を得ましたので、事務局、案をお願いいたします。

**【事務局】**

事務局案を申し上げます。まず、会長からでございます。現在、公益財団法人日本スポーツ協会常務理事及び公益財団法人千葉県スポーツ協会理事長の役職に就かれ、国及び県の体育・スポーツ施策に精通されていることから、大野委員を推薦いたします。また、副会長につきましては、第12次「千葉県体育・スポーツ推進計画」策定時に副会長を務められました、浪越委員を推薦いたします。よろしく願いいたします。

**【仮議長】**

ありがとうございました。ということで、会長・副会長の案を出していただきました。前回から引き続きということですが、よろしいでしょうか。

**【委員】**

異議なし。

**【仮議長】**

ありがとうございました。委員の皆さんの御了解を得ましたので、会長は私、大野、そして、副会長を浪越委員ということで決定をさせていただきました。ありがとうございました。

**【事務局】**

大野会長はそのままのお席をお願いいたします。

今後2年間、大野会長、浪越副会長ということで、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、会長になりました大野委員から一言御挨拶をお願いいたします。

**【会長】**

ありがとうございます。大野です。百年に1度、それとも何年に1度わかりません。大変な時代が到来しました。こういうときに皆さんから、会長として承認していただいたわけですが、私としては、これは、重荷だと思っております。この感染症、皆さんこういうことは経験されたことはありますか。私も初めてでございます。

感染症の一番のポイントは、普通の自然災害は、どんな大変な自然災害でも、大体受けたときが一番悪いのですが、それ以後は、みんなが集まって力を出し合い、徐々に復興していきます。だが、この感染症というの

は、その受けた後、「みんなが集まったら危ない、色々なことをやったら危ない」、つまり、その後の運動や活動が全部規制されてしまうのです。特に、私はスポーツ界において、これは致命的な挑戦をされているようなものなのだろうと思います。こういうときに会長というものを、私はやれるのだろうか、そんな思いをしておりますが、皆様方のお力添えでしっかり務めることができればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

#### 【事務局】

では、浪越副会長、御挨拶をお願いいたします。

#### 【副会長】

引き続き、副会長を仰せつかりました浪越です。よろしくお願い致します。第12次の推進計画の策定をお手伝いさせていただいて、審議委員も最後の任期に入るわけですが、引き続き副会長に御指名いただいたのは、「第13次までの責任」と、気持ちを改めて引き締め、取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願い致します。

#### 【事務局】

それでは、議事に入ります。議長につきましては大野会長をお願いいたします。よろしくお願い致します。

#### 【議長】

それでは、進行を務めていきたいと思っております。まず、議事に沿って進めますが、報告事項、事務局、お願いいたします。

#### 【事務局】

4月から体育課長となりました、伊藤でございます。どうぞよろしくお願い致します。

報告事項は、一括して説明させていただきます。

「資料2-A」を御覧ください。国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会についてです。本年は、鹿児島県で開催される予定でしたが、すでに報道等で御承知のとおり、年内の開催はなくなり、延期となりました。国民体育大会の昨年度の本県の成績は、天皇杯得点、皇后杯得点、ともに7位と好成績を残しました。来年以降も連続入賞を目指し各競技団体と連携して競技力の向上を進めてまいります。なお全国障害者スポーツ大会ですが、昨年度は茨城県での開催でしたが、台風により中止となっておりますので、2年連続の不開催ということになるかと思っております。また、岐阜県で開催予定だった全国健康福祉祭は令和3年度への延期が決定しております。

続きまして、「資料2-I」を御覧ください。今年は隔年で開催する「ちばアクアラインマラソン2020」も3月末に中止を決定しております。今回は、「チームスピリット杯」「スマイル杯」を設け、地域活性化やマラソン人口の拡大を図り、本県のスポーツ推進を図っていく予定でした。今後の方向性については、検討してまいります。

スクリーンの資料と併せて御覧いただければと思っております。

「資料2-U」を御覧ください。「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」についてです。令和2年度「障害者アスリート強化・支援事業」として、57名を強化指定しました。継続的な競技力の向上を目指し、強化する取組に対して助成してまいります。

「資料2-U-3」を御覧ください。令和2年6月19日現在、令和元年度東京オリンピック・パラリンピック強化指定選手の中から、オリンピック部分8名、パラリンピック部分4名が日本代表として内定しております。

続いて「別冊資料」を御覧ください。令和元年度の点検・評価報告についてです。事前にこの資料を送付しております。今回、最終版としてまとめさせていただきました。P2の点検評価・総括について目標を達成できていないものについて色を付けてございます。また、令和2年度の主な施策工程表については、コロナの影響により中止・変更等になった施策を、一覧にして御手元に配布しております。詳しくは資料で御確認いただければと思います。「報告事項 才」につきましては、事務局の溝口より御報告させていただきます。

#### 【事務局】

4月より、生涯スポーツ班の班長を仰せつかりました溝口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、報告させていただきます。「資料2-才」を御覧ください。県民の運動・スポーツに関するアンケートについてです。昨年度、成人の、特に若い世代を中心に、一般企業にアンケートをお願いしたところ、数社から報告をいただきました。今年度も引き続き依頼し、数値に反映できるように進めてまいります。また、障害をもった方にも調査をお願いし、調査の対象者を広げていく予定です。協力企業の数や業種を増やしていけるよう、今後、研究を進めてまいります。なお、今年度、児童・生徒用と成人・保護者用のアンケートに、新たにコロナの影響に関する内容を加えました。資料2の冊子の後ろから2枚目と3枚目に綴じてございます、アンケート用紙のQ21の内容になりますので、御覧いただければと思います。以上で報告を終わります。

#### 【議長】

ありがとうございます。5件について報告がありました。何か、質問・意見等ございますか。

特に、来年は5年目を迎えて、現在の計画等の結果についてもはっきりと問われてきます。そのデータが今日示されておりますが、色がついている部分については、まだ目標が達成していないという説明がありました。アンケート等についても、御意見があればお願いします。来年になったら、これを直してやってほしいという話ではなくなってしまいますので、結果を取りまとめて新しい計画につなげるようになりますから、今年段階で何かございますか。今年、3月にもう一度審議会がございますので、今日書類をお持ち帰りいただいて、内容等も改めて見ていただければと思います。

#### 【委員】

アンケートの件ですが、今年度分については、9月にやるという理解でよろしいでしょうか。今日のこの先の議論に関係するかもしれませんが、新型コロナウイルスの関係の話がありました。アンケート内容を拝見したところ、「どの程度影響を受けたか」という程度の質問で終わっているわけですが、コロナがきっかけで個人的な運動が活発化している側面もあります。自粛生活の中で、ウォーキングやランニングといったものが増えているのでは、という見方もありますし、私は個人的には、そういうものをコロナが去った後の運動習慣にどのように引き延ばしていくかが大事だと考えています。そのような視点も含めて、自粛でマイナスの要因がどのくらいあったかという視点ではなく、運動習慣にプラスの要因ということも含めて質問を入れていただくと良いのではないかと思います。

#### 【議長】

ただいま意見がございましたが、いかがですか。

#### 【事務局】

貴重な御意見ありがとうございます。マイナスではなくポジティブに捉え、それを今後に活かしていくことは、とても大切なことだと思いますので、是非検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

**【議長】**

他にございますか。

**【委員】**

「朝ごはんを食べない」割合の結果があまりよくないことが気になります。アンケートの設問について見えますと、「朝ごはんを食べない」ということをカウントするときに、「毎日食べる」「食べる日の方が多い」「食べない日の方が多い」「ほとんど食べない」の4択になっていますが、パーセントをとるときは、「食べない日の方が多い」「ほとんど食べない」の2つを合わせて「朝食を食べない」割合になっているのでしょうか。

**【事務局】**

御指摘のとおり、アンケートの結果につきましては、「食べない日の方が多い」「ほとんど食べない」の2項目について「朝ごはんを食べない」としているのが現状でございます。

**【委員】**

ありがとうございます。この質問をしたのは、今年、国から、「食育白書」というものが出されており、その中でも、朝ごはんを食べさせるということが目標になっています。その聞き方が、同じように「朝ごはんを食べますか」という聞き方ですが、「ほとんど毎日食べる」「週に4、5日食べる」「週に3、4日食べる」「ほとんど食べない」となっています。数字が出ているので、印をつけやすいというものもあると思いますし、もう一つは、国で「食べない」をカウントするときに、「週に2、3日食べる」というのと「ほとんど食べない」というのを合わせて、「朝ごはんを食べない」とカウントしていることがあります。答えやすいというか、そういう選択にこれから変えるというのは難しいかもしれませんが、国でも白書が出てきているので、国に合わせていくのもいかなものかなと思いました。

**【事務局】**

貴重な御意見、どうもありがとうございます。国に倣ったような形で、今後、展開できるように検討してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

**【議長】**

今までの集計とずれてしまうということはないですか。同じ形で3年やってきて、今回4年目であるので、聞き方によって数値が変わってしまうと比べられなくなるので、そのあたりをよく検討した上で、変える・変えないの判断をしてください。そうでないと今までのデータが生きなくなってしまう。今後検討していくとして、今回は、その点をきちんとチェックするようよろしくお願いします。

**【事務局】**

はい、わかりました。

**【議長】**

他にございますか。それでは、ないようでございますので、続いて協議事項に入っていきたいと思います。事務局、説明してください。

## 協議事項 テーマ

### 『新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う県民の体力・運動習慣の回復策』

#### 【事務局】

体育課 生涯スポーツ班の溝口です。引き続き私から協議事項について説明をさせていただきます。

今回の千葉県スポーツ推進審議会ですが、内容を大きく2点に絞って、委員の皆様から御意見をいただきたく考えております。令和2年度は、本計画の残り2年で成果を上げ、第13次へのステップとなる年度と考えております。第12次計画は3年を終え、計画の指標から読み取れる課題としては、成人の運動実施率が挙げられます。国は週1回の成人の運動実施率65%を目指していますが、本県のアンケート調査では、働き盛り世代において国の掲げている数値を下回っている結果となっています。成人の運動実施率は質の向上も含めて永遠のテーマとなっていくと考えています。また、幼児の休日の運動遊びが令和元年度、大幅に減少していることも気になる点です。

そんな中、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言が発令され、千葉県民をはじめ、日本国内全体の生活が大きく変容しました。まず今年度の施策については、コロナにより中止・延期・開催方法の変更など、様々な影響を受けているのが現状であります。また、県民の生活は、およそ3か月に及ぶ学校等の休業、幼児を含めた子どもの外遊びの減少、中高生の部活動の停止、在宅勤務や不要不急の外出自粛による成人・高齢者の運動機会の減少などにより、県民の体力低下が懸念されています。厚生労働省からは、「新しい生活様式」が公表され、“コロナと共存”していく生活が今後も続くことが予想されます。

現在の様子を簡単にまとめてみました。

県立学校は通常登校・通常日課に戻っており、部活動も対外試合等が可能となりました。高校総体をはじめ、中止となった様々な大会の代替大会も高等学校15、中学校3の競技で、各競技団体の主催により開催される予定です。

県立学校体育施設の一般団体への開放も、準備が整った学校から随時行うようお願いしております。今年度69校で開放予定です。

県所有体育施設の開放状況ですが、千葉県国際総合水泳場、総合スポーツセンター共に、検温や人数制限などはありますが、広く県民に開放し利用されています。

私たちの生活は、まだまだ心配な日々が続いていくことが予想されます。そこで新型コロナウイルス感染拡大防止により、懸念されている県民の体力の低下・運動機会の減少をピックアップし、すべての年齢層に及ぶ体力向上・回復や健康づくりの推進、それらをささえる環境に焦点を絞り、各委員より御意見を伺いたいと考えました。

そこで、本日のテーマですが、「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う県民の体力・運動習慣回復策」としました。協議事項は2点、協議事項1として「幼児・児童・生徒の体力向上及び運動機会の確保」協議事項2として「運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくりの推進とスポーツ環境の整備」です。

まず、協議事項1「幼児・児童・生徒の体力向上及び運動機会の確保」についてです。協議時間の目安は15:15までを予定しています。事務局からの説明を5分程度、協議を40分程度と考えていますのでよろしく願いいたします。関連施策はリンクのAが中心となります。それに関連する現状をまとめました。

①児童・生徒の体力及び幼児期の運動習慣についてです。スライドをご覧ください。令和元年度、本県の小5・中2の体力合計点は、全国平均を上回っております。しかし、本県の昨年度との比較では、多くの項目で下降傾向がみられ、特に筋力・投力は、いずれも課題となっております。今年度は、国・県共にすべての運動能力調査が中止となっております。また、令和元年度の指標で、幼児の休日1時間以上の運動遊び時

間が大幅に下がっております。アンケート調査を実施していただいた県内の幼稚園・こども園に聞き取り調査をしたところ、生活スタイルの変化、IT機器使用の低年齢化、環境の問題などの意見が上がりました。

②学校体育の現状です。各施策において、学校体育活動の充実を図っておりますが、近年、女子の「体育嫌い」傾向が問題となっております。現在、学校では、種目や実施方法に制限があるものの、徐々に通常の授業に戻り始めております。

③部活動の現状です。運動部活動の状況ですが、県内中学2年生の活動時間は全国平均を大きく上回っています。現在、新型コロナウイルス感染拡大防止により長期間停止していた部活動は段階を踏んで再開し、県立学校では7月15日より対外試合等も可能となっております。また、8月には各競技団体が主催の代替大会も予定されております。

④健康・安全への配慮についてです。学校では、3密を避ける、フェイスシールドや飛沫防止シートの使用、児童生徒下校後の消毒などの対応を毎日行っています。その他、各施設では「新しい生活様式」に準じた対応が求められています。

協議事項1ですが、対象は子どもが中心になります。委員の皆様それぞれのお立場から御意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。進行を会長にお渡しいたします。

#### 【議長】

ありがとうございました。今の説明について、まず質問をお受けしましょう。ございますか。

それでは委員の皆様から意見をいただきます。今回、今までの審議会とは方向が違います。コロナの問題でどんなことがあったか、または、どういうことが起こっているか、皆さんに意見を伺おうと思います。さらに、来年に向けて、今ある評価についてプラスしていこうということもあります。今日の会議は、児童生徒と一般社会、二つに分けて御意見を頂こうと思います。新しい形ではありますが、大変前向きな良い協議題にいただいたのではないかと考えております。このスポーツ推進審議会は、千葉県の各スポーツ関係各界の主な人たちに来ていただきました。そういう意味から、千葉県トップレベルの会議であると思っています。皆さんの意見はとても貴重なものだとそういうことも含めながら、協議題1においては、幼稚園、児童・生徒から高校生まで、どんなことが起こっていて、どんな状況があるのか、コロナに対してどのような体制がとられているのかについて、皆様方の御意見を伺えればということでもあります。どうぞよろしく願いをします。特に関係している分野をそれぞれお持ちでしょうから、それについて御説明いただければ大変ありがたいということでもあります。それではまず、幼稚園についてよろしく願いいたします。

#### 【委員】

私の幼稚園では、3月になりまして、1週間臨時休業としました。3月14日の卒園式は親御さんどちらか1名ということで対応をさせていただきました。新学期になり、4月初旬に入園式だけ実施し、その後4・5月は臨時休園にさせていただきました。その時、私立幼稚園ですから、一応月謝をいただくことになっています。今、認定こども園や保育所は、無料でやっているようです。私どもの幼稚園は昔からの私学助成の幼稚園ですから、どうしても何かしなくてはいけないということで、インターネットを通じ、折り紙や歌等、動画で配信させていただきました。それがとても効果的で、その中に柔軟体操を入れました。子供はそれを見て家でやっているようでした。私どもの幼稚園では、体操の先生を特別に雇用していて、意見をいただきました。ブリッジや大人が背中を押ししたりするほか、自分自身でも柔軟体操をできるというのがとても好評でした。私もこの年齢になっても体を柔らかくするというのは大切だと思います。コロナだからできないではなく、前向きなというお話がありました。体を柔らかくするという事は重要ではないかなと思っています。柔軟体操というものを全国で、千葉県の中で認めていただければと思います。

もう一点ですが、どうしても運動不足になりがちになります、幼稚園、認定こども園、保育園、本園のような私学助成の幼稚園では、保育時間も違います。保育所などは、働く親御さんが多いので、受け入れをしなければなりません。全体的に幼児教育が長時間保育になってきて、教えることではなく、預かるだけになってきているように思えます。私は子供に教えていかななくてはならないと思って、体操の先生を直接雇用しており、鉄棒・跳び箱・マットを教えたいと思っています。そのうちの鉄棒を、ソーシャルディスタンスをとり、逆上がりをやっています。理由は、新生児は棒を握らすと、自分で握って棒をつかまって上に上がってきます。それくらい腕に力がありますが、生活していくと腕の力がなくなり、けがをしやすくなります。その理論の中で、鉄棒・逆上がりを練習すれば、自分の体が半回転、一回転することによって気の動転も少なくなり、手の力もつくので鉄棒をやっています。また、手の力がつくよう、ソーシャルディスタンスを保って“うんてい”をやっています。それから上り棒をやっています。上り棒も間隔を開けて、子供でも2m上がれば一番上に触れますので、力を付けながら一番上をタッチ出来れば、達成感があります。”うんてい”も同様です。逆上がりも出来れば達成感があります。

**【議長】**

ありがとうございます。工夫されてやられていることはよくわかりました。この3月、4月の休園中に連絡をとって、映像を配信し、子供たちが良くてできるようになってきた。このあと、園が復活した時には、このようなことを続けていくということですね。委員の園では、特別、体操を強化しているということは伺いましたが、他の幼児指導等においてはどんな様子かおわかりでしょうか。

**【委員】**

私の知り合いの幼稚園では、コロナ対応に追われて、そういうことができなくなっているという話を聞いております。

**【議長】**

そうすると園によって体力関係に大きな差がでてしていると判断すべきだということですね。

**【委員】**

それを私どもは話をしているところですが、今はコロナに追われてなかなか難しいと思います。

**【議長】**

そこまで手が回らない、今後そのあたりのところが改善できていくと変わってくるということで御意見をいただければいいですね。ありがとうございます。

コロナの対応でどんなことをやられて、効果があったかなかったか、なおかつ何もやっているのか、そうでないのか、どのようなことをやったら良いのか、そのあたりをお聞きしたかったものですから。ありがとうございました。今、幼稚園の様子はわかりましたけど、幼稚園の次になると学校体育になりますか。

**【委員】**

大学の話ですが、他の学校と対応が違っていると思いますが、本大学には体育専門の学部があり、コロナで大学全部が一斉に立ち入り禁止になり、授業はすべてオンラインになりました。課外活動、部活動ができなくなり、学生が公園などで活動し始めて、住民の方から連絡が来たりもしました。本部に対して体育施設を開けていただけないかと上席の先生が掛け合ってくださいましたが、様々な学部の学生がいるので公平性が保てなく、体育だけに開けるわけにはいかないというので、施設を使うことができませんでした。体操競技だと手具を使っていないと一気に力量が落ちていくような競技もあります。やはり死活問題ということで、専門の授業で秋学期に予定していた授業を前倒しで行っています。秋学期もコロナがこのような状態だったら、人数を減らして、授業時間を倍にするという理由付けで先に行わせてもらっています。ただ、課外

活動が可能になったら、教員が管理してないサークルや、様々な学生がそれぞれ始めてしまうと、マスクや除菌などの指導が徹底しないだろうということで、課外活動は未だに禁止になっています。大学によっては課外活動を開始しているところもあるようなので、対策が違うのだらうと思います。今、運動時もマスクはなるべくさせて、苦しくなったら外す、熱中症の方の確率が高いということで、取りなさいということで指導はしています。あと除菌等をするのをやっています。小・中学校、高等学校の授業でも、そういう状態で始まっていると聞いています。しかし、年齢が低くなるほど、人との距離が詰まってしまう。学生もいずれここでもコロナが出る可能性があるかと覚悟してやっています。出た場合にどうするかということで対策をしていますが、今日の会議のように発熱がないか個人のチェックはしており、恐らく各学校さんもそうだと思います。小・中学校、高等学校はできないと思いますが、大学は施設に20人までの制限で行っています。野球部や陸上部など人数が多いところは、時間差で行っていますが、外の部活はそこまでしなくても良いのではと、本部に相談したところ、曖昧になるということで、今のところ1施設20人というガイドラインのまま進んでおります。今後、徐々に緩和されていくとは思いますが、運動より更衣室などの方がリスクが高いのかもしれないと思います。なかなか更衣室や部室というところは、施設の設備投資をしなかったりするので、このあたりが、もし緩くなるなら考慮してもよいかと思いました。

#### 【議長】

今大学の様子をお話いただきました。ソーシャルディスタンス、手洗い、うがい、マスクなどの対応をしながらで、規制がきついですね。緩まないというか、しっかりやってくれているとは思いますが、ただ気を付けなければならないのが更衣室であるとかロビーであるとかの過密が問題になるところですかね。小中体連、高体連はいかがですか。

#### 【オブザーバー】

それでは、中学校の子供たちの様子についてお伝えいたします。3か月間という長期にわたる臨時休業が解かれ、本校では6月から分散登校がスタートしました。1週間、2週間単位で徐々に教育活動を回復させ、現在は概ね休業前の姿を取り戻しています。

はじめに体育の授業の様子をお伝えいたします。授業再開当初は、「全体的に動きが重い」と体育科教諭から報告がありました。私自身、校長室からグラウンドを見ていても、明らかに動きが重いと感じていたところでした。体力面では、「特に、持久力の低下を強く感じ、続いて柔軟性、そして筋力の順で続く」とのことでした。今年度は、新体力テストが中止となり、昨年度との比較はできない状況ですが、子供たちの動きの質から概ねそのように判断しております。また、体育の授業では、休業前と比較し軽いけがや終了後の健康観察で痛みを訴える生徒が増えています。

続いて運動部活動ですが、体育の授業と同様に、各顧問からは、「持久力の低下を強く感じる」との報告がありました。また、「動きの硬さやぎこちなさが見られ、その場でのボールコントロール等には大きな課題はみられないが、動きながらのプレーには質の低下を感じる」とのことです。6月22日から、部活動を再開してちょうど1か月が経過しましたが、「技能回復の割合は50%程度」と、ある顧問は話しています。これまで、本校では体育の授業も運動部活動も基礎体力の回復を重点に進めて参りましたが、これらの状況を踏まえすと、引き続き、最長で1カ月程度は基礎体力の回復に努めていく必要があると考えます。

もう1点は、保健室の来室状況からみた子供たちの様子についてです。今から申し上げる内容は養護教諭から聞き取りしたものです。学校再開後は、例年と比較し病気や体調不良などで来室する子供たちが20%ほど増えています。また、けがについては先程の体育の授業とも関係しますが、昨年の同時期と比較して、20%ほど増えています。続いて、子供たちの動きが重いことと関係しますが、本校において「村田式」と

いう計算方法を使って肥満度について調べた結果をお伝えいたします。昨年度は、肥満の程度、高度・中等度・軽度の子供たちを併せると全体の約10%だったのですが、今年度6月に調べた結果では、15.6%にまで上昇していました。これは明らかに、臨時休業中3か月間の運動不足や食の乱れ、更には夜型の生活習慣などが影響してものだと考えています。参考までにお伝えしますと、平成30年度の肥満の割合は全体の約11%で、昨年度とほぼ同様の結果です。

これらを踏まえ、まずは生活習慣を正しながら基礎体力を回復させることが大切であり、本校では体力向上委員会を中心に全校体制で指導に取り組んでいるところです。また、今後は熱中症のリスクも高まってくるので、運動する際は安全対策を十分整えた上で指導にあたるのが重要だと考えます。

本校は、800名を超える比較的大きな中学校であるため、概ね県の平均的な傾向が表れる特徴があります。現在、小中学校体育連盟に加盟している中学校は395校ありますが、その多くの中学校が同じような状況であると思われます。以上参考になればと思います。

#### 【議長】

ありがとうございました。高等学校体育連盟、今、小中体連から話がありましたが加えて何かありますか。

#### 【オブザーバー】

生徒の様子については、小中体連会長からあった話とほぼ同様です。高体連としてここまでの対応と、これからのことについてです。高体連は、8月末までの対外試合の中止を決定いたしました。大きな理由としては、生徒の健康安全面での配慮と進路決定を控えた3年生の授業時間の確保、新型コロナに対応した大会運営、準備期間の不足などです。高体連には、競技専門部があるのですが、その委員長に聞き取りをしたところ、高体連主催大会を中止にするのはやむを得ないが、競技団体主催では、より専門的な大会を、高体連主催よりも専門的な知見から大会を開催できるということで、競技団体主催で開催をする方向も有り得るという話を聞いた中で、高体連は主催大会の中止を決定いたしました。今後ですが、このまま高体連主催大会の中止という形では、生徒も部活動へのやり甲斐もないでしょうから、大会開催指針を策定し、それに基づいて9月以降の新人大会等に向けて高体連の指針、競技団体の策定したガイドラインを合わせながら大会を運営していくという方向で検討を進めているところです。そしてこのような状況の中で、今後部活動を運営していく中では、効率的効果的な運動部活動を、まさにガイドラインに沿った運動部活動が必須となると考えます。このために、今までの事業をほとんど中止としているところですが、高体連の研究大会というものがあり、12月に開催する方向で今進めています。そこで新しい部活動の在り方というものが高体連の方からも提案していきたいと考えているところです。

#### 【議長】

新しい部活動、流行りの言葉になりそうですね。今回、特別支援学校体育連盟からオブザーバーで入っていただきまして、状況はどうか。

#### 【オブザーバー】

特別支援学校は、御存知のように、障害種、障害の程度によって様々だと思いますが、休業期間が3カ月あったということは、特別支援学校に通う児童・生徒の体力向上や運動機会の確保というところでは、かなり大きな痛手を負っていると考えております。なかなか自分で体を動かすということが習慣化しにくいお子さんたちが多く、この子たちは学校に来ることで、登校して体を動かすということが、かなり大きな要素、ウエイトをしめているところです。それが休業期間2カ月、3カ月止まってしまったということは、この子たちの生活習慣、生活のスタイルが変わってしまったというところにつながります。

6月から学校が再開し、それを戻していく中で、子供たちがそこでまた混乱したり、戸惑ったりということもあるかと思います。もちろん自分たちで修正していける子供たちもいますが、多くの子供たちは、6月7月の中で、学校生活を取り戻して体を動かすということを習慣化していくところで、また夏休みに入ってしまう。そのあたりが継続的に続かないというところを心配しております。ただ、この休業期間中に先程ビデオというお話がありましたが、特別支援学校の中でも家庭学習の中でビデオを見て視覚的な刺激を模倣して体を動かすというところでは、ひとつ効果があったと聞いております。これから特別支援学校でもいろいろなことを工夫していく必要があると思います。まずは、学校に来て体を動かし、登校して習慣化していければというところと、環境面で多くの特別支援学校は過密化ですので、思いっきり体を動かす場所が少なく、時間も限られているため、密の状況がどうしても出来てしまいます。この辺りも環境面を含めて、今後検討していかなければならない課題かと捉えております。以上です。

#### 【議長】

特別支援教育の特性からいくと、どうしてもソーシャルディスタンスが取れない状況がでるわけですね。そういうことに対してはどのように対応しているのですか。

#### 【オブザーバー】

ソーシャルディスタンスを取れるような環境を準備しますが、どうしても指導に入ったときに、子供と教員が密着しなくてはならない状況ができてしまいます。障害種によってもかなり先生が生徒に密接にならないといけない状況になります。工夫はしていますが、確実に子供たちが意識してくれるかというところ、できる子供たちもいますが、ソーシャルディスタンスがとれないこともあります。広い空間があれば自由にできるところもありますが、空間は限られます。特に知的障害の特別支援学校では人数が多くなってしまいます。その中でソーシャルディスタンスをとるとなると、現実的には難しいかなと考えているところもあります。

#### 【議長】

ありがとうございました。次に食の問題にいきたいと思いますが、先程この動きの中で、肥満率が出ましたね。10%が15%になっているという、その辺も含めて何か御意見はございますか。

#### 【委員】

先程の「朝食を食べる」というところの、国の出てきた白書の中にもありますが、「なぜ朝食を食べない、食べられないのですか」という質問の答えに、「朝起きられない」が一番多いです。今回コロナで、通うところに通わなくなったり、起きる時間に起きなくてもよくなったということで、恐らく朝食をとらずにブランチ的な食事をとって主食菜食副食がそろわず、2時3時過ぎにお腹がすいたらおやつ的なものを食べたりと、食習慣の乱れもあると思います。食事の回数は減り、朝食が無くなることで、体が肥満になりやすいという体制も整ってしまいます。夜型の生活で、夜遅くに食事をしますと体脂肪がつきやすくなることにもなります。最近の動画に頼るわけではないですが、食事を作る動画サイトもあります。家で子供たちと一緒に食事をとることが多くなっているの、食事を上手に自分で作るというところを学校教育の中でも、推し進めていただけるとありがたいです。肥満対策にもなると思います。

#### 【議長】

ありがとうございました。先程、特別支援学校から話がありましたけれども、ソーシャルディスタンスがとれないということは幼稚園でも影響があるのではないのでしょうか。幼児にソーシャルディスタンスをどう教えればいいのか、そのあたりは工夫されていますか。

**【委員】**

先生が、シールを廊下に貼っています。普段、町中や駅にも貼ってあるものです。貼れないところには三角コーンを置きます。シールの間に立つように子供には言いますが、近づいてきますから、なるべく器具を使っています。

**【議長】**

ありがとうございます。そんな工夫をされているということですね。もう一つ、オリンピックに大きな動きがありますけども、いわゆる一般の方や子供の運動ではなく、競技スポーツ選手、選ばれた方々のスポーツ活動というのはどれくらい影響を受けているのでしょうか。

**【委員】**

明後日、予定であればオリンピックの開会式があったわけですが、多くのトップアスリートは、ナショナルトレーニングセンターも使用できず、思うような練習ができない状況が続いており、練習の機会も全くない状況が続いています。どちらかという技術的なことよりも、メンタル面で不安を抱えている選手が多いことも事実だと思います。そうした中で、周りがどのようにアスリートをサポートしていくかということになりますが、反面、アスリートの中で、今、自分たちはスポーツをしていていいのかという声も多く聞かれておりました。ただ、私も自粛期間中に家の周りを見ていますと、多くの子供たちが外に出て限られた場所で運動していました。人間が、本来もっている運動欲求、そういうところが必要であり、それをみんな感じていたと思います。コロナ禍においてトップアスリートが自分たちにできること、として動画をあげて一緒にトレーニングの映像を流すことで、子供たちに少しでも影響があれば、スポーツをすることへのきっかけづくりにもなるのではないかと思います。多くの選手は、自分たちがオリンピックに出られるか出られないかというよりも、自分たちに今、何ができるかというところに重きを置いて過ごしているという印象が強かったです。

**【議長】**

ありがとうございました。各分野から大体お話を聞きましたけども、なかなか難しいですね。ただ今、皆様方の話から言えることは、まず家にいたときにどんなことをやっておき、またやってくださいということが、きちんと連絡が取れるとだいぶ違うという話がありました。それが動画などになるのだと思います。規制をして回復してきたときに、ただ、さっと戻るのではなくて、やはり戻してやる方法というものもあると思います。段取りも必要ですね。単純に2か月後に戻ってきましたから「さあ」というわけにはいかないであろうという現状が出ていますから、そういう対応もそれぞれきちっとしていく必要があると思います。そして、そういう中で、何が指導出来て何が出来ないのか、特に、日常の生活習慣になると、これは体育から離れてすべてになるので、食生活も絡めて、よく見ていかななくてはいけないだろうということが浮き彫りにされています。かつ皆様方の話の中から、できないことばかりの中でやっていますという声が聞こえてきました。大筋のところへはなかなか戻れないけども、今やれる範疇でできることはやりましょうという話だったと思います。みなさんの意見を取りまとめているとこのように感じますが、この際、今、発言された中でこんなこともあるということがあればお願いします。

**【委員】**

まとめて三つのことを申し上げます。一つ目は確認で、体育嫌いの子供や部活動の満足度についてですが、その理由です。そこは把握されていると思いますが、それをまず前提としてスタートしていただきたいということです。なぜかと言いますとコロナで様々な対応が変わったことにより、むしろ今までのやり方にフィットできなかった子供が、自粛の中でこれは自分に合っていると思っているといった子供もいる可能性

があるということです。今までの満足度が低かった子供が、どのような理由で今までの現状にフィットできなかったを見る必要があるのではないのでしょうか。二つ目ですが、皆さんのお話しにありましたし、大学生の競技者もそうですが、やっぱり子供たちの体力レベルは低下していますね。明らかに変容していますので簡単には戻らないと思います。想像以上に変容しているということ的前提を考えなければならないのが2つ目です。最後に3つ目ですが、明らかに変容していることなので今までのところに戻すという発想だけでなく、コロナの後に今まで実現できなかったものをどう実現していくかということですね。コロナをきっかけに新しい仕組みを作ることは、視点として不可欠ではないかなと思います。例えば自粛生活の中で、自ら運動に対するモチベーションが初めて、未だかつてないほど高まった子供もいるかもしれませんし、あるいは、非常に退屈していた後に、学校に行って体を動かしてみたら、体を動かすことがなんて楽しいことなんだ、プレーそのもの、ゲームを楽しむことに今までにない感覚を覚えた子供もいるかもしれないです。それから仲間と体を動かす楽しさや親との触れ合いなど、コロナがもたらした今までにない感覚をきちんと見ていくべきだと思います。そしてすぐに元に戻してというよりは、元に戻す部分と、コロナをきっかけにして、今までに作ってこられなかった運動の機会を作るという視点の両方もつべきではないかということをお願いしておきます。拝見していると、千葉県が、ということではなく、全国的に特に競技スポーツという部分をいかに元の形を取り戻すかというところに、非常に多くのスポーツ関係の関心が行っているような気がします。これは本当にその競技というものの画一的な目的の染みついた強さというのは、如何ともしがたいと私個人としては思います。もちろん、それを取り戻すことは大事ですが、そうでない部分、今までなかったものをコロナをきっかけに、作るという視点をぜひもつべきではないかと思います。

#### 【議長】

ありがとうございました。これから課題はたくさん見えてくると思いますが、今日は決められた時間の中で、このような発言を参考にさせていただければと思いますが、児童生徒の次は一般の方になりますが、協議事項2について説明していただけますか。

#### 【事務局】

それでは引き続き協議事項2について説明をさせていただきます。

協議事項2は「運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくりの推進とスポーツ環境の整備」についてです。時間の目安は15:55までを予定しています。このあと事務局からの説明を5分程度、協議を35分程度と考えています。こちらにつきましては関連施策はリンクのB・Cが中心となります。

まず、成人の運動実施率です。昨年度、第2回審議会の第2部で取り上げ、委員の皆様から貴重な御意見をいただきました。前年度より、アンケートで運動のとらえ方を国の調査内容に合わせたため、これまでと比較することはできませんが、先ほども申し上げました通り、働き盛り世代においては国の目標に届いておりません。運動習慣の継続・質の向上を推進していくこと、また、コロナとの共存の中で、いかに県民に健康・体力づくりを推進していくかが課題でございます。

次に、県民の健康・体力づくりを推進するための受け皿の一つになる総合型地域スポーツクラブについてです。令和元年度は36市町に、85団体、計22,000人の会員が登録されています。現在の状況を調査したところ、活動施設にまだ制限があったり、参加を控える会員もおり、十分活動ができていないクラブが多数あるようです。徐々に施設面の制限が緩やかになれば、通常の活動に近づき、運動・スポーツをする機会も増えると思いますが、現在はなかなか厳しい状況です。

次に、国の第2期スポーツ基本計画についてです。目標として『成人の週1回以上のスポーツ実施率65%程度（障害者は40%程度）の達成を目標としています。以上のことから、コロナとの共存生活の中、

県民の健康体力の向上や、それを支える環境について御意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

**【議長】**

ありがとうございました。一般の方たちの運動ということになりますが、先ほどもありましたが、今までテレワーク等で家にいる人たちが、今まで以上に運動しているかもしれないというような話もありましたが、そのことも含めながら、今起こっている状況等、様子がわかるようなら委員の皆さんからお話を伺いたいと思うのですがいかがでしょうか。

**【委員】**

今の地域あるいは一般の人々の状況というと、それを研究して、日々見ながらデータを集めているわけではありませんので何とも言えませんが、子供たちのこととも関係して、平日の昼間、普通にお父さんと一緒に走っている子供たちがいます。普段はそのような光景を見たことないですね。でも「お母さん、お母さん」と言われながらお母さんが一所懸命子供についていく、スケートボードをさかんにやっている子供をみてお父さんやっているが上手いかずに笑いながらチャレンジしている、そういう様子をいろいろなところで目にするようになりました。そういうことを考えると、やはり一般の特に一番運動をしていなくて心配な層、小学生くらいのお子さんをもつ、お父さんやお母さんが子供と一緒に動く機会を得ていたのかもしれないと考えています。個人的には今こそスポーツ推進委員の出番ではないかという思いがあります。親子でもご家庭でもできますと働きかけができる、そういう中では総合型も良いのですが、今こそスポーツ推進委員の皆さんの力を発揮していただくチャンスと考えます。県として各市町村に働きかけをし、さらにコロナ感染でこんな現象があって、オブザーバーの先生方が言われたように危機感を感じていて体力も低下している、動きも鈍く肥満の傾向も見えてきた、心の問題も心配という事実をメッセージとして伝えながらこのような状況を県民のみなさんに知ってもらい、その中で県民一人一人が考え、積極的に運動に関わるような姿勢をもってもらえたらと思っています。県のホームページに県の強化指定選手が走り方や動き方を紹介する動画をアップしてはどうでしょうか。県のホームページをクリックしたら親子や小学生だったらこれくらいとか、あるいはお母さんが子供たちに見せて、幼稚園児と一緒にやってみてくださいなど、県で独自のものを作れるはずですし、そういうことに長けている県庁の職員がたくさんいるので作ってみたらいかがでしょうか。啓蒙とそういうものも県から発信したらどうでしょうかという意見です。

**【議長】**

ありがとうございます。もう一つ、総合型スポーツクラブの方はどんな状況になっていますか。

**【委員】**

総合型地域スポーツクラブ全体を知っているわけではないですが、自分の関わっているクラブもそうですが、細々と理事会、役員会を開いています。しかし、やはり問題は趣旨に賛同して、こういう時期だからみんなで乗り越えていこうという状況での会費の理解と、これだけ活動が少なくなっているのに会費は同じかという認識の会員とが出てきています。つまり、先ほどの大学でもありました、学校がやってないのに授業料を徴収するのか、少し返すのかというような、残念ながらそのような話が少し出てきています。しかし外で活動できるとか、あるいは距離を保ちながらできるものなど、細々とできる活動をしています。以上が現状だろうと思っています。やはり、室内で皆でバレーボールとかいうのは、なかなか会員の皆さんも一歩踏み出せない。そんな状況にあるような気がしています。

## 【議長】

ありがとうございました。みんなで集まってスポーツをやろうという雰囲気までは、なかなか作れないようです。今、総合型スポーツクラブとありましたが、一般の人たちの様子は少し聞こえてきそうですが、他にそういう様子をつかんでいたり、地域スポーツの現状などがお分かりの委員はいらっしゃいますか。

## 【委員】

私は栃木在住ですが、栃木の総合型クラブも、今お話があった状況と基本的には全く一緒に、活動はほとんどできていません。それから私は個人的にランニングをしたり、月例マラソン大会も主催していますが、ランニング会でいうと民間企業の全国的なイベントを運営している会社にいる教え子といろいろ作戦を練るのですが、基本的にはアクアラインマラソン同様に、本年度に関しては壊滅状態ですね。後期とか秋から冬にかけて、いくつ数えられるかという程度だと思しますので、非常に厳しい状況だと思います。自分の考えとして、先ほどの子供と同様に考えますと、一般の方のデータも出てくるのが怖いぐらいスポーツ習慣というものが激減していると思います。ただ、先ほどから出ているようなウォーキングやいわゆる個人的な軽運動をする人は増えているかもしれません。今こそきちんと把握する必要があるかと思えます。たぶん私の感覚ですと、ランニングとかウォーキングをやっている人は同時にそうしたイベントや大会に出るといった人もかなりいまして、それとは別に大会には出ないけど自分でやっているという人が一定割合います。私の調査した中で言えば25%から30%くらいはクラブにも所属せずに、教室とかイベントにも出ずに、まったく個人としてやっているという人は週1回レベルの実施者の中には相当な割合いると思います。ですから今の現状はその個人的な運動者がものすごく増えていて、そして今まで出場する機会があったイベントサービスなどの単発的なプログラムの機会が失われているということで、未だかつてないほど個人で運動するという人が増えているということが推測されます。個人で形成する個人的な運動習慣はマンネリ化してきていると思うので、その人たちを、せっかく始めた運動をなんとか途切れさせずに、もう少し楽しい、プレーの本質を味わえるような場所にいざなえば非常にいい機会ではないかと思っております。やはりそのところで、総合型クラブや、推進委員の方たちの力というのは必要なかと思っております。

## 【議長】

ありがとうございます。実はこの委員の中に身障者として直接スポーツをやっている方がいらっしゃいますから、どのように今の状況を受け止めているのか、そのあたりも含めてお伺いしたいと思うのですがよろしいですか。

## 【委員】

私は車いすバスケットボールを専門にしているので、実際、自肅になってからも車いすバスケットボールの私の身近な現状しかお話しできませんが、参考になればと思います。6月初めくらいから千葉県内の運動施設、体育館が使用できるようになったので、個人で予約を取って体育館を使わせていただいたり、クラブチームとしても活動していますので、チームとしての体育館練習もすでに始めています。2、3か月ぶりにチームメイトと会って、どのように過ごしていたのかと確認もしていたのですが、そもそも私の所属している千葉ホークスは日本一を狙っているチームなので、個々のモチベーションが高いです。運動習慣も当然あるのですが、ただ障害を持っているところから肺機能の低下を恐れたり、合併症やいろんな症状の心配があるので、自肅期間中は不要不急の外出はしないという人が多かったです。私の場合ですが、真夜中に散歩したり、人に合わないような時間帯や場所でウォーキングや車いすを漕いだりしかできませんでした。男性は家の中で腕立て伏せや自分が動かせるところをとにかくトレーニングしていたようです。今まではジムに行ったりして器具を使ってトレーニングしていましたが、家の中で器具を使ってトレーニングというの

は、なかなか環境上置けなかったりとか、お手伝いがいなかったりするので、ほんとに自分のできるところを  
していたようです、自粛明けに筋肉質になって出会った方もいれば、太っていた方が絞って痩せた人もいて  
太っている人には会っていないですね。そこから非常にモチベーション高く過ごしていたのだということは  
感じます。現在はクラブチームで活動していて、私たちにとっては嬉しいことですが、体育館の予約がとて  
も取りやすく、実は非常に活発に活動できているというのが現状ですね。あと、中には日本代表の強化選手  
がおりますが、合宿の方も制限されたりしているのと、みんなスポーツがしたかったのだと思うくら  
い、今まで以上に参加率が良く、いつも100%に近いので、密になるのを心配しています。しかし、その  
あたりはトレーニングメニューを色々考えながら、接触を避けた内容でトレーニングをしているという状況  
です。普段は体育館などの施設が予約で使えなかったりするので、個人利用ということで行っていました。  
シュートを打ちたいなというときには、障害を持ってない方と同じゴールを使います。その時にどうしても  
障害を持ってない人の方が当然多いので、そこに押され負けて、途中でやめて帰ったりすることもありま  
したが、今は密にならないようにということなのでとても練習しやすい状況です。私やチームにとっては、今  
年度の試合が全部なくなってチームのモチベーションがない中でも、トレーニングとしては非常にやりやす  
い環境も増えたなと感じています。

#### 【議長】

ありがとうございました。こういう時代は一人一人のモチベーションが大事で、そういうところをどのよ  
うに広めていくかということになるのではと思いますが、それを持っている人たちは自分でもトレーニング  
できる、そうでない人たちは少し流されてしまう。それで先ほどの推進委員のみなさんの活躍の場だとい  
うような言葉がでてくるのかなと思います。オリンピックの候補選手などはトレーニング中心なのですよ  
ね。競技に復活してくるのはどんな道筋を考えているのですかね。

#### 【委員】

当然のことながら各部活動と同じように接触が激しいものはしばらくかかるとか、ネットプレーであれば  
もう始まっているもの、できているものもあると思いますので、そこは競技ごとに少し違うと思います。発  
言の機会をいただいたので別件でも一つよろしいでしょうか。千葉県として成人の運動実施率をさらにもっ  
と上げていきたいというところにつながるとしているのが、先ほど学校の体育活動の充実というところで  
委員から御発言がありましたけども、女子の体育嫌いの傾向の増加が問題と資料に書かれています。ただこ  
れは一概にコロナ渦ということではないのですが、恐らく長年同じ問題がこのところ長く続いているのが  
事実だと思いますし、千葉県の中で、体育嫌い、体育を好きになるというところの授業などの解決策をどの  
ようにお考えになっているのかということです。当然のことながら、私くらいの年代の方も含めてです  
が、スポーツが好き、運動欲求がある方は、遡ってみると子供のころから体育が好きであった。エビデンス  
をもとに話しているわけではないので恐縮ですが、そういうところにつなげていくと子供のころから体育を  
好きであれば必然的に成人になってからもスポーツが好きであり、運動欲求も高く、健康増進にもつながる  
ことになると思うので、県としてそういったところがどうなっているのか、もし少しお聞かせいただければ  
と思っています。

#### 【議長】

今の件についてよろしいですか。

#### 【事務局】

まず運動嫌いということに関してですが、昔の体育の授業と今の体育の授業、だいぶ変わってきたなと思  
います。特に今一番変わりつつあるのは、アクティブラーニングということがよく言われています。これを

体育の授業の中でもどうやって取り込んでいくかです。単に体を動かしているからということではないので、子供たちが自分たちで考えて、例えばチームプレーをやった時に、良かったのかどうだったのか、ということを考える機会を作り、それを改善して次の授業に活かしていくということが大切だと考えます。今まではどちらかというと先生が主導の形、どちらかというとティーチングタイプの授業が多かったと思いますが、今はやはりコーチングタイプになってきています。それが進んでいくことによって、子供たちも自分たちで考えながら方向性を出していけるということは一つのきっかけになると捉えております。もう一つが、今は選択の授業が増えてきております。それぞれの子供の能力の適正に合ったものを、もちろん偏りなく好きなものだけということではないのですが、このようなところの2点で徐々に改善されていくと期待しているところです。

**【議長】**

いかがでしょうか。

**【委員】**

ありがとうございます。

**【議長】**

今、児童生徒の話が出ましたが、一般の人たちの65%。大変レベルが高い気がしますが、このあたりについてはどう考えていますか。

**【事務局】**

次は一般の方々のことということですが、実はもう10年くらい前になりますか、総合型のスポーツクラブの数が伸び悩んでいた時期が正直ございました。4月に着任してこんなに膨れてきて浸透してきているのだと思っております。また、中の活動も最初のころは限られたスポーツだけでしたが、今は障害者スポーツも一緒に取り入れた形とか、そういったこともだんだんと増えてきているということで、そのあたりも徐々に浸透してきているとも思います。また、私自身がソフトテニスで、地域のスポーツクラブ等でやっております。そんな中でやはり感じるのは、親子が一緒に取り組む機会というのが多くなったなということです。よく見るスポーツ・するスポーツという話がございますが、学校もそうですが、例えば小学校のジュニアの子の親と一緒に応援に行く機会、中学校、高校、大学、場合によっては社会人の試合も応援はたくさんいます。そうした中で、やはりするだけではなくて一緒に見たり応援したり、それをきっかけとして運動の機会が増えていくということはあると思いますので、この流れは非常にいいのではないかと思っております。きっかけができることによって、それがまた年齢を重ねるところにつながっていく。一つの例として私、ソフトテニスの関係の者ですから、テニスで子供の応援でテニスをして、一緒にちょっと手伝いをやっていた。その方がママさんのテニスに入っていき、そして将来続けていく。こういったケースもございます。あるサッカーのお父さんですが、子供の審判の資格を取る。それによって運動する機会ができて、その後なんと自分も選手になっていくと。一般の方でこのような事例もあります。これからの中で、子供が一つのキーワードになるのかなど。子供を通じて親も一緒にやる。ということで、そういった中の地域のスポーツの取り組みの中で、スポーツがある意味家庭の好循環にもつながっていき、運動の習慣にもつながっていき、いろんな形でいい影響をもたらしていくのかなどということは思っておりますので、やはり子供を通じた地域スポーツというのは大事ななと感じています。それは中学校、高校、大学を通じて、子供と親の関係の中で大事なことで、きっとこれからは保護者をどのように、学校も一緒に、いい意味で一緒にやっていくというのは一つのスポーツのきっかけになるのではないかと思っております。以上です。

**【議長】**

ありがとうございました。家族でというような話ができました。一つの手がかりになるのかもしれませんが、他に何か御意見はございますか。特にないようですが、このコロナに向かってコロナ対策でこれから進めていく方向というのは、実は今皆さんお話しいただきましたが。色々なやり方がありそうな気がします。そして、大事なことは今は何を考えているのかということ、個人でやれるものをしっかりやりましょうという段階だということです。それをどうアピールしてやっていくか。個人でというと、今、課長が言われたように、これは一人ではなく家庭ということも入ると言えますね。その後、家庭でというものも入りますが、そういうレベルで進めるにはどうしたらいいか。そして、その次の段階に入っていくためにはどうしていくかというようなことを工夫していく必要がある。ただ、その次の段階に入っていくには、皆さん方にお伺いしましたが、まだ入っているところはなさそうですね。今、やっと耐えているところに第二波が来てしまったというところで困ったなというのが現状かもしれません。いずれにしても、きちんと続けていかなければいけないことでしょうし、私どももそうですが、行政の皆さんもそういうところをきちっと連絡をとって進めていくということは大事なのかなと思います。情報をきちっと提供して進めていくのが大事なのかなと思いますが、いかがでしょうか。最後にどなたかにまとめていただけますか。御意見を。

**【事務局】**

その前に一つだけお聞きしたいことがあるのですがよろしいですか。先ほどはコロナの影響で逆に運動をする機会が増えたのではというお話があり、これからアンケートがあるのでその中でどのように調査したらいいかと考えていました。これは私の案です。やはり去年がどうで今年がどうだというのはできないと思います。今回の場合、コロナの前の時と今年コロナになってからの比較をしたときに自分自身の運動機会が増えた、あるいは減ったのかというような形にすればコロナの影響の参考になるデータが取れるのかと考えました。そのあたりのところで専門的見地から、教えていただければと思います。できればそういった項目を一つでも二つでも入れられたらと思っていたのですがいかがでしょうか。

**【議長】**

委員の皆様、何か良い案はございますか。

**【委員】**

通常のスポーツ実施率に関しては今までと同じ聞き方をさせていただいて、コロナの質問は、今回限定で一連のコロナ禍の中で、生活はどうだったかという頻度は聞いた方がよいと思います。質問紙のスペースに余裕があるならば、私は頻度と内容というのは、セットにならざるを得ないのではないかと思います。頻度だけ聞いても、その頻度の目標値だけが独り歩きしていくというのは、どうかと思います。ですから、大体推測はできますけれど、先ほどから申し上げているような、いわゆるクラブやサークルのような活動とイベントやプログラムと、それから個人として行うもの、スポーツ施設はもうほとんど壊滅状態だったわけですから、簡単にそのくらい分類して聞いてみればいかがでしょうか。クラブはほとんどできていない、プログラムやイベントも中止、公共の施設を使うこともできない、そうすると、あとは個人でやったというものが少し増えたという人がいるかもしれないということで、形態と頻度を組み合わせでお聞きになるとよいのではと思います。

**【委員】**

私は娘が2人いて、1人はスポーティーですが、1人は真逆で運動嫌いです。運動嫌いの方は、最初は学校がなくて喜ぶ訳ではないですが、家にいられるという感じでした。休みが長くなるにつれて、いよいよ自分でも「ちょっとこれは運動不足だ」ということを思ったようで、学校が再開されて体育の授業を頑張るようにな

ったようです。回数は増えていませんが意識は変わったのかと感じています。ですから、そういうお子さんも大人も含まれているのではないかと考えています。

学校が休みだったときに、運動嫌いの娘の方が、運動不足だと思ったのか、自転車に乗りに行きたいと言ったのです。私は、手賀沼の近くに住んでいるのですが、手賀沼沿いにサイクリングやランニングができる道があって、走りたくなるような道なのです。お休みできるベンチもあったり、こういう場所があると個人でも運動したくなる、と改めて思いました。あれはどなたが作っているのか、市なのか県なのか、そういう方々の御努力が運動に加味されると改めて思いました。

**【議長】**

ありがとうございました。質問のヒントになるお話だったと思います。お話の中にもありましたが、こういうことを聞けるのは、今年に限ってだと思しますので、そのあたりを工夫されて入れられたらどうでしょうか。

**【事務局】**

はい。ありがとうございました。

**【議長】**

他にございますか。よろしいですか。

ありがとうございます。ほぼ時間内に収まりました。

与えられた協議について、皆様には、もっている知識を出していただきました。まだまだ、お話しただけるところがあると思いますが、いずれにしても、先ほど私が言いましたように、今は、始まったばかりです。一人で行えることをどうするか。そして、今後、どうしていくかというあたりになっていきますが、やはり先を見ながら考えていくことが大事になってきます。この会だけではなく、もし様子が分からないようなことがあれば、直接委員の皆様にご連絡してでも御指導いただいて、工夫されたらよろしいかと思います。まとめになったかどうかわかりませんが、以上で今日の審議会、まずは、協議を終了いたします。

事務局、何かございますか。

**【事務局】**

ございません。

**【議長】**

それでは、時間となりましたので、今日の審議会を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

**【事務局】**

会長、長時間にわたり進行していただきまして、誠にありがとうございました。

また、委員の皆様方、オブザーバーの皆様方、専門的なお立場から貴重な御意見を賜り、誠にありがとうございました。本日いただきました御意見を踏まえまして、今年度の事業を推進していくとともに次期計画に向けて検討を始めたいと思います。今後とも御指導の程、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、次回は令和3年3月12日金曜日、午後2時から、ここスポーツ科学センターでの開催を予定しております。しかし、今後の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえまして、開催方法につきましては、今後、検討してまいりたいと思います。

本日は長時間にわたり御審議いただきまして、ありがとうございました。以上をもちまして、令和2年度第1回千葉県スポーツ推進審議会を閉会いたします。

ありがとうございました。